



いまから千年以上も前、みなさんが踏んでいるこの土の上で、百済や新羅、高句麗の人たちは日本人の国づくりを合わせ、燦然と輝く飛鳥・奈良時代の文化を築きあげました。日本という国の名も、律令国家の体裁や歴史の書も、みなここから始まったのです。

それは、大陸の中国、半島の韓国、そして島の日本の文化が一つに結晶し、法隆寺の壁画、東大寺の大仏、そして美しい百済観音の彫像に至るまで、アジア人の命と心が一緒に溶けあつた黄金の時代でした。奪うより与えるものが、食べることでより祈る心が、戦争より平和な協力が、いかに尊いものかを示してくれたのです。

奈良の都を育ててきた東アジアの文明が、いま衰えていく西欧の産業文明に新しい息吹をかける時代になり、みなさんはその主役として招かれたのです。古き都の記憶を新しい創造力にかえ、みなさんが今まで守ってきた奈良のトポフィア（場所愛）を多様なローカル文化と結ぶ原動力として使うときがきたのです。

万葉の言の葉には大和言葉とともに、多様なアジアびとの声、漢字の音と韓国語の音が響いています。アジアの草原から、太平洋の海原から、いま吹いてくる新鮮な風によつて、万葉の生命の葉一枚一枚が揺れています。みなさんを囲んでいる山はもう城壁ではありません。見知らぬ人も自由に越え、行き来する開かれた道であり、みなさんが眺めているあの川は、美と知性がいっしょに溶けあひ、世界の海にたどりつく生命の流れです。

「あをによし奈良の都は咲く花のにほふがごとく今盛りなり」と、昔の歌人が歌ったように、いま奈良と奈良県立大学は真つ盛りの時間を迎えています。そして奈良をアジアと世界につなぐみなさんの知恵を待っています。今一三〇〇年の歴史の瞳がみなさんの一人一人を見つめています。

新入生のみなさん

2010年度奈良県立大学入学式祝辞（抄録）

李御寧 Lee O-young

奈良県立大学名誉学長
韓国梨花女子大学名誉教授